

耕作放棄地からワインの聖地に ～農地バンクを活用しワイン産地へ～

地域の状況

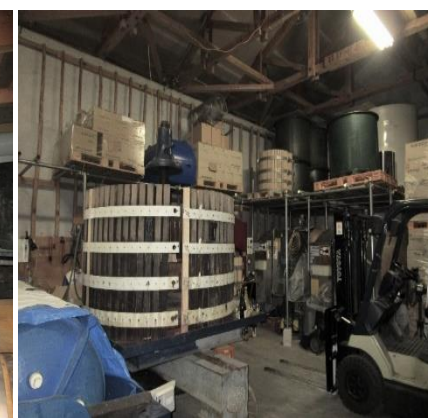
中国山地と瀬戸内海に挟まれた岡山市北区富吉地区は、地中海性気候に近い晴天率の高い気候と水はけの良い花崗岩土壌のため、古くからブドウ栽培地として栄えた歴史をもつが、近年の少子高齢化に伴う担い手不足により、遊休化した園地の対応に苦慮していた。

ラ・グランド・コリーヌ・ジャポンの取組

- ・社長である大岡弘武さんは、有機無農薬栽培のブドウと天然酵母にこだわった「自然派ワイン」の醸造家。フランスでワインの醸造・販売を行っていたが、日本で「自然派ワイン」を広めるため2017年に帰国。
- ・ブドウ栽培に適した気候である岡山県に移住し、ブドウ栽培から醸造まで手がけるラ・グランド・コリーヌ・ジャポン(株)を設立した。ブドウ栽培のための園地は県庁から紹介された農地バンクに相談し、約2haの園地を借り受けた。
- ・農地バンクの現地駐在員がリタイア農家に働きかけ、まとまりのある遊休化した園地を確保することができた。自然に近い環境でワイン用のブドウを有機栽培し、高付加価値のワインを醸造・販売している。



【大岡弘武さん】



【ワイン醸造所】

農地バンク活用の効果

- ・ブドウ栽培用の園地の全て(約2ha)を農地バンクから借り受けている。
- ・地域の農地バンク駐在員の仲介によって、元々の園地の所有者である地域の住民と移住者である大岡さんの双方ともに安心感を持って園地の貸し借りをすることができた。
- ・借受地の中には所有者不明の園地も多くあったが、農地バンクを活用することによって、所有者の搜索等の事務手続をスムーズに行うことができた。

ワイン用ブドウ産地化に向けた今後の展望

岡山を自然派ワイン用ブドウの産地とするために、ワイン生産の輪を広げていきたいと考えており、現在は、ラ・グランド・コリーヌ・ジャポン(株)の元研修生2人が農地バンクを活用してワイン用ブドウの栽培を行っている。
今後も、農地バンクを活用してまとまった園地を確保してブドウ園地の整備を行うとともに、研修生の受け入れなどを通じて新規就農者の確保に繋げていきたい。

取組成果

- ・農地バンク活用実績2.1ha（R2現在）
- ・農地バンクを活用した研修生の新規就農2名



【遊休化していた木造ガラス温室の園地】



【リタイア農家から確保した露地栽培の園地】